

阿蘇の峯より

いや高き

君が御蔭に

立初めし

まなび處の

榮わゆく

その本つ日を

ことほぎて

本に報いん

真心の

赤きはやがて

日の本の

ひかりともなり

大君の

御稜威みらいづや千代に

輝かん

どこそ歌ひて

祝ひしか

其れゆ果して

二十年はたまたまと

早なりにけり

今よりは

學ぶ人々

益々ますますに

學べるわざを

眞帆にあげ

丸き地球を

押し廻り

丸き日の旗

立て廻す

可きをまつ浦の

君はしも

松の緑の

千代かけて

實けに浦安うらやすの

國くにどころ

なし奉り

給ひてめ

祝

歌

教授 本田 弘

音楽を奏つとばかり聞ゆなり軒の玉水今日を祝ひて
そのかみを祝ひて歌ふ今日毎に聲うち添ふる龍田山風
學び舎の松の梢をいや高みひき植ゑし人を忍ぶ今日哉

一、三、丙 南 正 樹

秋たけて健兒の意氣のあがる時かへりみ祝ふ二十年の榮

寄 船 祝

荒波を蹴たてけたてゝ二十年の齡經たる船の行く手幸あれ

大空の光もまさる秋にしてほぎ歌うたふ今日の嬉しさ

一、二、甲 吉 鹿 善 郎

年を逐うて緑いやます松こそはわが學びやの千代の友なれ

紫 吟社句録

蜻 蛉

野市果てし假屋を板の蜻蛉かな

江 村

怒羅張るも野祭近し赤蜻蛉

全

押し汐に葭根の泡や赤蜻蛉

全

沖風や肩摺り松に飛ぶ蜻蛉

八葉葵

移り住んで兒の物真似や飛ぶ蜻蛉

春 草

川風の翻す霧やとぶ蜻蛉

滴 々

寺印得しを寺寶見たさや飛ぶ蜻蛉

水 郷

大農車馳る長鞭や飛ぶ蜻蛉

全

秋 の 雨

秋雨や塵捨て洞の毒草も

江 村

拾ひ來し失せ鎌の錆や秋の雨

全

水落ちし跡の藻草や秋の雨

滴 々

消毒器の湯氣白う今日も秋の雨

白 人

何觸れて琴の空音や秋の雨

春 草

秋雨や大竅底の邪宗門

八葉葵

何時割れし古刹の遺牌や秋の雨

布 水

木醋も香に立つ包厨や秋の雨

水 郷

凝想の吾に煤落つ秋の雨

全

残 暑

搾乳も唾者の仕事や秋暑し

八葉葵

鬪雞に蓼湯も煮るや秋暑し

全